

高松市の南端、徳島県との県境に、市街から車で約40分、高松空港からも車で約15分の距離に塩江町があります。ここは、約1300年前に行基僧侶によって発見され、これまで温泉資源をいかしながら「塩江温泉郷」として栄えてきました。高松市の奥座敷とも言われた塩江温泉郷を「オンリーワンの価値を持つ温泉郷」にするため、市では活性化に向け、いろいろな施策に取り組んでいます。その中の一つに、現在の道の駅を、塩江温泉郷のシンボルとなる拠点づくりとして、温泉や観光そして医療を含めた複合的な施設として整備するという事業が進んでいます。



ここ塩江町は、讃岐山脈に連なる大滝山や竜王山、香東川や複数のダムがあり、山あいの豊かな自然に恵まれた環境となっています。また、「ホタルの里」として選定されるなど、自然とのふれあいが身近にできる地域です。4月は「桜まつり」、6月は「ホタルまつり」、8月は「温泉まつり」、11月には「紅葉まつり」と季節によりいろいろな表情を見せる塩江町には4つの大きなまつりがあります。現在、新型コロナ渦により開催できていない状況ではありますが、終息等により開催できた折には、ぜひとも塩江町に足をお運びいただきたいと思えます。

本校は、昭和31年に安原・塩江・上西の三か村が合併して塩江町になり、その後、昭和36年に統合して塩江中学校になりました。また、平成17年に塩江町が高松市と合併し、高松市立塩江中学校と名称を変えました。平成25年には新校舎が完成し、2年後の平成27年より、校区内の3小学校が統合して塩江小学校となって同一敷地内で開校し、小中併設校として現在に至っております。

令和6年度は、全校生徒32名、教職員25名で教育活動を行っております。学校教育目標は「ふるさと塩江を愛し、将来への夢や希望を持ち、自ら学びともに高めあう生徒の育成」です。確かな学力、豊かな心、健やかな体、そして学校教育目標冒頭の「ふるさと塩江を愛し」のことばにもありますように、郷土を支えるという4つの重点目標を設定しております。各目標においても小中併設校としての利点を活かし、小学校との連携を大切にして教職員が一丸となりチーム塩江として取り組んでいます。



これからもPTAをはじめ、地域の方々のご協力を得ながら、信頼され、地域から愛される学校づくりをめざしてまいります。



高松市立塩江中学校長

赤阪 篤史